

November 25, 2021

【前日の為替概況】米インフレ上昇の加速でドル全面高 対円 115.52 円、対ユーロ 1.1186 ドル

24 日のニューヨーク外国為替市場でドル円は 3 日続伸。終値は 115.43 円と前営業日 NY 終値 (115.14 円) と比べて 29 銭程度のドル高水準。パウエル米連邦準備理事会 (FRB) 議長が続投する見通しとなったことを受けた米利上げ前倒しへの思惑から、ドルを買う動きがこの日も継続した。ハト派として知られるデイリー米サンフランシスコ連銀総裁が「インフレ率が高止まりし、雇用の伸びが堅調に推移すれば、テーパリング加速を支持する」と述べたこともドル買いを促した。レジスタンスとして意識されていた 2017 年 3 月の高値 115.51 円をわずかに上抜けて、一時 115.52 円まで値を上げた。

11 月 2-3 日分の米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事要旨で、「複数の当局者は高インフレが続けばテーパリングのペースを加速させ、予想よりも早く FF 金利を引き上げる準備をする必要があるとの認識を示した」ことが明らかになったことも相場の支援材料。

7-9 月期米国内総生産 (GDP) 改定値や 10 月米耐久財受注額は予想を下回った一方、前週分の米新規失業保険申請件数や 10 月米個人消費支出 (PCE) は予想を上回るなど強弱入り混じる結果となった。

ユーロドルは反落。終値は 1.1199 ドルと前営業日 NY 終値 (1.1248 ドル) と比べて 0.0049 ドル程度のユーロ安水準。新型コロナウイルスの感染再拡大による行動制限の強化で、ユーロ圏の経済回復が鈍化することへの警戒感が広がり、ユーロ売り・ドル買いが進行し、一時 1.1186 ドルと昨年 7 月以来の安値を更新した。売り一巡後はショートカバーが入り、1.12 ドル台前半まで下げ渋ったものの、米利上げ前倒し観測が高まる中、ユーロドルの戻りは限られた。

独中道左派の社会民主党 (SPD) と自由民主党 (FDP)、緑の党は 3 党による連立政権を発足させることで合意した。来月には SPD のショルツ氏が 16 年にわたってドイツを率いてきたメルケル首相に代わる新たな首相に就任する見通しとなった。

ユーロ円は 3 営業日ぶりに反落。終値は 129.28 円と前営業日 NY 終値 (129.51 円) と比べて 23 銭程度のユーロ安水準。欧州市場では独ロックダウン入りへの警戒感が高まり、128.69 円まで売り込まれたものの、NY 市場に入るとドル円の上昇につれた円売り・ユーロ買いで 129.32 円付近まで値を戻した。

【本日の東京為替見通し】ドル円 底堅い展開か、米国は感謝祭のため休場

本日の東京外国為替市場のドル円は、ニューヨーク市場が感謝祭で休場、明日はブラックフライデーのため閑散取引となることで、底堅い展開ながらも上値は限定的だと予想される。

ニューヨーク市場のドル円は、2017 年 3 月の高値 115.51 円を上抜けて、115.52 円まで続伸しており、2016 年 12 月 15 日のトランプ第 45 代米大統領誕生後の高値 118.66 円が視野に入りつつある。ドル円の高値の目処としては、購買力平価からの最大乖離幅+22%で算出できる。1985 年のプラザ合意前の 240 円台が購買力平価から約 22%高、2015 年 6 月の 125.86 円の時も約 22%高だったことで、現状の上値目処は 118 円台が算出される。

バイデン米大統領がパウエル FRB 議長の続投を決定し、ブレイナード FRB 理事を次期 FRB 副議長に指名し、両者が「インフレとの戦いが最優先事項」と表明したことで、米 10 年債利回りは 1.7%台まで上昇し、ドルは全面高の展開となりつつある。すなわち、11 月 2-3 日分の米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事要旨で、「複数の当局者は高インフレが続けばテーパリングのペースを加速させ、予想よりも早く FF 金利を引き上げる準備をする必要があるとの認識を示した」ことが現実味を帯びつつある。

米連邦準備理事会 (FRB) がインフレ指標として重視している 10 月の個人消費支出 (PCE) 価格指数は、前年比+5.0%へ上昇し、1990 年以来の高水準を記録した。バイデン米政権が主導した協調的な戦略石油備蓄 (SPR) の放出規模が予想を下回る規模だったことで、12 月 2 日の OPEC プラスでの決定次第では、インフレ高進の背景にある原油価格の上昇基調が再開する可能性が高まることになる。すなわち、インフレ高進は一時的 (transitory) ではなく、持続的となる可能性が高まりつつある。

本日のドル円のオーダー状況は、上値には、115.75 円超えにストップロス、115.80 円にドル売りオーダー、超えるとストップロス買い、116.00 円にドル売りオーダー、超えるとストップロス買いが控えている。下値には、115.25 円に 29 日の NY カットオプション、115.00 円にドル買いオーダーと 25 日と 30 日の NY カットオプション、114.80 円にドル買いオーダーが控えている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 10月企業向けサービス価格指数（予想：前年比 0.9%）
- 14:00 ◇ 9月景気動向指数改定値
- 未定 ◇ 11月月例経済報告

<海外>

- 09:30 ◇ 7-9月期豪民間設備投資（予想：前期比▲2.0%）
- 未定 ◎ 韓国中銀、政策金利発表（予想：1.00%に引き上げ）
- 16:00 ☆ 7-9月期独国内総生産（GDP）改定値（季節調整済、予想：前期比 1.8%/前年同期比 2.5%）
- 16:00 ☆ 7-9月期独 GDP 改定値（季節調整前、予想：前年同期比 2.5%）
- 16:00 ◇ 12月独消費者信頼感指数（Gfk 調査、予想：▲0.5）
- 17:00 ◎ ビルロフドガロー仏中銀総裁、講演
- 17:10 ◎ エルダーソン欧州中央銀行（ECB）専務理事、講演
- 17:30 ◎ スウェーデン中銀、政策金利発表（予想：0.00%で据え置き）
- 18:00 ◎ シュナーベル ECB 専務理事、講演
- 18:30 ◇ 10月南アフリカ卸売物価指数（PPI、予想：前月比 0.6%/前年比 8.0%）
- 21:00 ◎ 7-9月期メキシコ GDP 確定値（予想：前期比▲0.3%/前年比 4.5%）
- 21:30 ☆ ECB 理事会議事要旨（10月 28 日分）
- 22:30 ◎ ラガルド ECB 総裁、講演
- 23:05 ◎ ハスケル英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 26日 02:30 ◎ ベイリー英中銀（BOE）総裁、講演
- 米国（感謝祭）、休場
- アジア欧州会議（ASEM）首脳会議（オンライン、26日まで）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

24日 09:55 岸田首相

「米国と歩調を合わせ、石油の国家備蓄の一部売却を決定」

24日 10:04 ニュージーランド準備銀行(RBNZ)声明

「物価を安定化し持続可能な最大限の雇用を支援するため金融政策の引き締めが引き続き適切であると判断」「インフレと雇用の中期的な見通しを考慮すると、時間の経過とともに金融政策刺激のさらなる解除を予想」「CPIインフレ率は、短期的には5%を超え、今後2年間で中間値である2%に戻ると予想」

「雇用は現在、持続可能な最大レベルを超えている」「NZ経済指標は、経済が潜在力以上のパフォーマンス継続を強調している」「NZではロックダウンにもかかわらず、家計と企業のバランスシートの健全性、財政政策の支援、輸出の好調などにより経済は底堅さを維持」

24日 10:53 山際経済再生相

「(円安への質問に対し)為替について発言するのは控えている」「為替は様々な要因で変動するため、全てのことを注意深く見ている」「適正なマクロ経済の運営が必要」

24日 11:20 オア NZ 準備銀行(RBNZ)総裁

「政策金利について慎重に対応」「25bpの引き上げにより選択肢が増えるが現時点では時間がかかる可能性」「賃金上昇について心配していない」

24日 16:39 ルメール仏財務相

「新型コロナ第5波が経済成長に大きな懸念を引き起こすことはない」

24日 18:46 バスレ・スロベニア中銀総裁

「パンデミックが悪化した場合は調整の余地」「インフレは予想よりも強く、長続きする」

24日 18:49 ホルツマン・オーストリア中銀総裁

「テーパリングは12月会合で議論」「12月会合でインフレ見通しを検討」「インフレは一時的で来年から減速する可能性」「PEPPは3月から様子見となる可能性」

24日 19:17 パネッタ欧州中央銀行(ECB)専務理事

「金融政策は忍耐強いままであるべき」「経済活動に有害なリスクが高まる可能性」「時期尚早な引き締めは景気後退を引き起こす可能性」「現在のインフレ上昇は、中期的なインフレ懸念の証拠が出現しない限り無視されるべき」

24日 23:12 デイリー米サンフランシスコ連銀総裁

「流れは明らかにテーパリング加速に向かっている」「ただ、テーパリング加速を求めるには時期尚早」「より多くのデータが必要」「来年1-2回の利上げがあっても驚かない」

25日 00:45 テンレイロ英中銀金融政策委員会(MPC)委員

「緩やかな金融引き締めを予想。タイミングはデータ次第」「利上げ時期について12月か2月になるかは言いたくない」

25日 01:11 バイトマン独連銀総裁

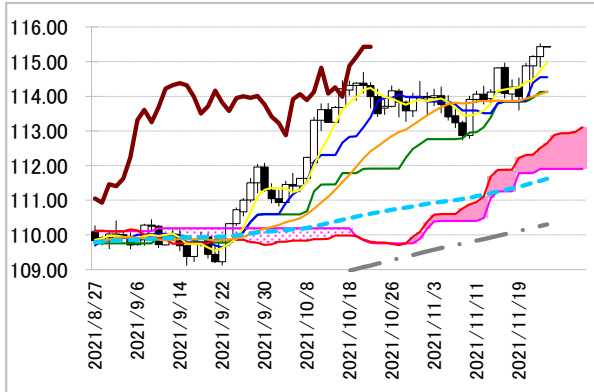
「独経済成長は6月予測よりも減速する可能性」「ECBは長期にわたるインフレの不確実性を考慮し、緩和政策に固執するべきではない」「独インフレ率は6%近くでピークに達し、来年末には3%を下回るだろう」「ドイツと欧州ではインフレの上方リスクが支配的」

25日 04:07 米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨

「当局者らは来年の力強い成長を予想」「一部の当局者はテーパリング加速の正当性を支持」「当局者は経済活動の予測は下向きに偏っており、インフレ予測を取り巻くリスクは上向きと指摘」「ワクチン接種の進展と強力な政策支援により、経済活動と雇用の指標が引き続き強化されている」「供給制約とインフレが以前の予想よりも長く続く可能性が高い」「高インフレがより持続的であることが証明される可能性」「高インフレが続いた場合、資産購入のペースを調整し、参加者が現在予想しているよりも早くFF金利を引き上げる準備をする必要」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

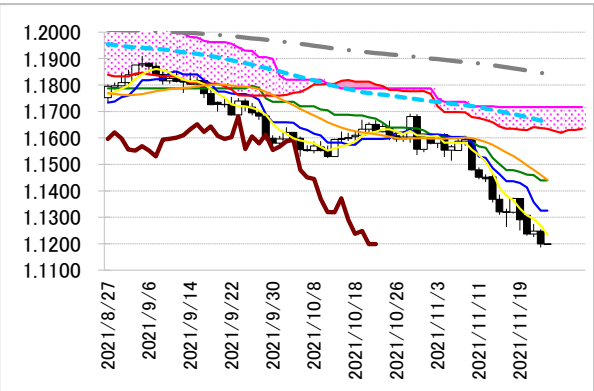


<ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。3手連続陽線で上昇し、転換線を上回って引けていることで続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	117.53(2017/1/9 高値)
レジスタンス 1	116.87(2017/1/11 高値)
前日終値	115.43
サポート 1	114.56(日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	114.13(日足一目均衡表・基準線)

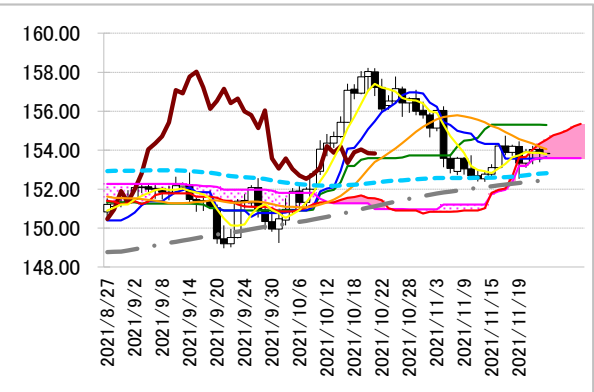


<ユーロドル＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。抱き線で反落して、転換線を下回って引けていることで続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1325(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1199
サポート 1	1.1070(2020/5/29 安値)

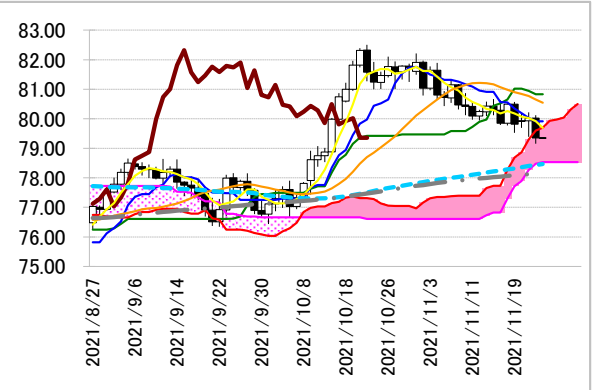


<ポンド円＝11/22 安値を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。雲の中で引けているが、一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回っていることで売りシグナルが優勢な展開となっている。しかし、抱き線で反落しているものの、転換線を上回って引けていることで反発の可能性が示唆されている。

本日は、11月22日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	154.53(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	153.84
サポート 1	153.10(11/22 安値)



<NZドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の中で引けているものの、売りシグナルが優勢な展開。抱き線で反落して、転換線を下回って引けていることで続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	79.91(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	79.35
サポート 1	78.54(日足一目均衡表・雲の下限)

